

40)

著者：原田泰伸・小森弘詞・松永勝也

論文題目：右折時における先急ぎ衝動の調査の試み

論文集名：日本交通心理士会第10回中国四国九州地区研究発表会発表論文集

発表年月：2017（平成29）年7月

頁：2-14

右折時における先急ぎ衝動の調査の試み

○原田 泰伸* ・ 小森弘詞** ・ 松永勝也**・***

* アイルモータースクール下関・**アイルモータースクール・***九州大学 (名誉教授)

キーワード：右折行動・先急ぎ・

目的

毎年、数多くの事故が起きているが、その傾向は変わらず、平成 28 年には、追突事故は 184,567 件、出会い頭事故は 120,679 件発生しており、この 2 要因等による件数が事故の多くを占めている。そして車両相互事故に限れば、それらについて多く発生しているのが右折時の事故 (40,173 件) である (表 1)

原因は数多くあるであろうが、その一つに交差点での先急ぎ衝動が、他に比べてより強く現れ、その先急ぎ衝動から来る行動の一つが、信号無視をして交差点を通過するというものではないかと考えられる。

そこで、今回は右折時の先急ぎ衝動の強さの度合いを調べる試みとして、交差点で信号無視をした車の台数の調査を行い、右折と直進及び左折とを比較することで、なんらかの違いが見出せるのかを検証してみた。

表 1. 平成 28 年事故類型別交通事故件数

	発生件数	構成率
追突事故	184,567	37.0%
出会い頭事故	120,679	24.2%
右折時衝突	40,137	8.0%
左折時衝突	21,555	4.3%
正面衝突	10,381	2.1%

方法

1. 調査場所

調査場所については、最近、右折時の事故が発生したこと、右折があまりに難しい交差点は、右折可否判断に対する要素が多くなり、数値における評価が難しいとの判断から、右折レーンがあり、

右折矢印のある交差点とした (山口県下関市菊川町上岡枝交差点：図 1 及び図 2)。

2. 調査日時

調査日時については、同交差点は平日の昼間、もしくは夜間は交通量が少ないため、ある程度の交通量の見込める土曜日、あるいは夕方、帰宅時の時間帯を調査した (調査日時：①[1 回目]5 月 24 日 (水) 17:30~18:30、②[2 回目]5 月 26 日 (金) 17:30~18:30、③[3 回目]:5 月 27 日 (土) 17:00~18:00)。

3. 調査対象車

調査対象車は、① 豊田町方面から新下関方面に向かう右折車、② 豊田町方向から小月町方面に向かう直進車、もしくは吉田に向かう左折車、③ 小月町方面から豊田町方面に向かう直進車、もしくは新下関駅方面に向かう左折車とした。



図 1. 調査を行った交差点の写真



図 2. 調査を行った交差点位置図

4. 判別方法

ビデオ録画データを目視することにより、信号に対する黄出及び赤出を判別した。また、小月方面から吉田に向かう車については極端に台数が少ないことから、調査対象から除外した。

結果と考察

調査結果を表2～表4に示す。信号無視台数割合が最も高いのは右折時であり、第1回目の調査では154台中14台(9%)、第2回目の調査では223台中27台(12%)、第3回目の調査では189台中15台(7%)であった。

表2. 5月24日の調査結果

	5月24日(17:30~18:30)		
	右折	直進・左折	対向直進・左折
通行台数	154	195	317
信号無視	14	8	16
違反率	9%	4%	5%

表3. 5月26日の調査結果

	5月26日(17:30~18:30)		
	右折	直進・左折	対向直進・左折
通行台数	223	264	476
信号無視	27	9	34
違反率	12%	3%	7%

表4. 5月27日の調査結果

	5月27日(17:00~18:00)		
	右折	直進・左折	対向直進・左折
通行台数	189	212	378
信号無視	15	6	11
違反率	7%	2%	3%

今回の調査においては、信号を無視して通過する台数が多い場合は先急ぎ衝動が強く出現しているであろうという推測に基づき調査を行ったが、3回の調査とも、交通量が一番少ない右折の違反率(信号無視)が一番高い結果となった。本交差点において、右折と直進及び左折での大きな違いは、

右折は対向直進車及び左折車の進行を妨げてはならないという点である。すなわち、右折をする場合、直進車、左折車を待たなければならない場合が多く、右折矢印がある場合でも、そのことが先急ぎ、信号を無視する行動に拍車をかけているのではないかと推察される。

また、5月26日の調査(表3)では右折車の違反率が高くなっていた。これはこの時の交通量が他の調査時と比べると多かったこと、特に対向直進、左折車が多く、交差点で待たされる時間、状況がより多かったためと考える。

まとめ

今回は、先急ぎ衝動が信号無視を誘発するのではという推論に基づき右折行動に関する調査を行った。その結果、右折の違反率が一番高く、右折時の先急ぎ衝動の強さの可能性が示されたと考えられる。

右折時の違反率が高い理由の一つは、右折信号のない交差点では右折できる時間が短いことも関係しているとも考えられる。このことが右折車と直進車の衝突事故多発の要因になっているとも考えられる。

今後は信号無視と先急ぎ衝動の関係性の強さ、他の要因による先急ぎ衝動の誘発の可能性などの検証を行うことで、右折時の心因的危険性の詳細がより明らかになるのではないかと考えられる。

文献

- [1] 警察庁：交通事故統計 平成28年版.